

さよふ木村は本津で居るのむすもひは木村「吉野川に川心
富き子」のむすもひは「女も子もさへず。人家營園さへもさへず
附「式射おへぬぬのむすもひは「お家刺の善徳田舎屋に思つて手
厚二三張の十坪の畑さすもさへずのむすもひは」

「お家刺は子に控する辨御金をも出」つたよへずの辨御金「
吉「おれ」つた共の辨御金もさへずの辨御金もさへずの辨御金も
るむすもひは「お家刺のむすもひは「お家刺の辨御金も」

「お家刺」のむすもひは「おれ」つた共の辨御金もさへずの辨御金も
「お家刺」のむすもひは「おれ」つた共の辨御金もさへずの辨御金も
ありまへぬ」

「お家刺」のむすもひは「おれ」つた共の辨御金もさへずの辨御金も
「お家刺」のむすもひは「おれ」つた共の辨御金もさへずの辨御金も
吉「貴氏」のむすもひは「おれ」つた共の辨御金もさへずの辨御金も

財団法人協同會大阪支所

呉れて居るヨ」

平「元員陶汰ならばそれで識首して欲し」

松「よろし」

平「今後もそうして下さい」

松「聞いて置ませう」

井「皆もうよいのだらう説明しないと云へばそれでよいでないか」

平「それでは元員陶汰として一般の解雇手當を發表して貰ひたい、

それでないとは皆不安で仕方がない」

松「色々な要求があるものだネ」

平「^たな達の生活が好くなるわけそれわけ私等の生活は苦しくなる
のでオ歐洲で百萬圓もする畫を買つた爲に私等は餘計に働かれ
ばならないのです」

松「あれは國の爲に買つて來たのだ労働者の爲に買つて來たのだ」
平「それなら一般に公開したらどうです川崎の職工にも一度位見せ